

平成25年度 徳島県立阿南工業高等学校 学校評価 総括評価票

1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し、基本的人権を尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動できる人間力を育成する教育を推進する。
- ③ 社会の一員としての役割を果たし、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立していくために必要な能力や態度を育てるキャリア教育を推進する。

2 本年度の学校経営目標

- ① 職業人として必要とされる資質や態度を身につけた人材を育成し、個々の進路実現が図れる学校づくりを推進する。 [学校力の向上]
- ② 豊かな人間性と高い人権意識を身につけ、他者を思いやる心と自尊感情を育む。 [人間力の向上]
- ③ 専門分野に関する確かな技術及び技能の定着を図り、ものづくりなどの体験的学習を通して実践力を育成する。 [実践力の育成]
- ④ 地域の活性化や地域産業を担う人材の育成と地域との連携を深め、地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。 [地域との交流]

3 総括評価票

| 中期目標 | 重点目標 | 自己評価 | | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題 今後の改善方策 |
|--------|--------------|--|---|---------------------------------|----|---|---|
| | | 目標達成のための計画 | 評価指標・活動計画 | 評価指標の達成度・ 活動計画の実施状況 | 評価 | 学校関係者の意見 | |
| 学校力の向上 | ①基礎学力の定着を図る。 | 出張等による授業振り替えや学校行事等の精選・実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。 | 年間の授業実施時数を1単位につき35時間の80%以上確保することを目標にする。 | 授業実施時数は、80%未満であった。 | B | ◎授業の確保に努め、基礎学力の向上が図られていると思う。さらにスキルアップしてほしい。 | 新学習指導要領にともなう体験活動の充実を図るため、授業実施との両立をよくふまえ、計画的に実施していきたい。 |
| | | 各教科の「学習指導の記録」の作成・中間評価・最終評価を実施することにより、わかりやすい授業へ改善を促す。 | 生徒アンケートにより、「授業がわかりやすい」とする生徒の割合50%以上とする。 | アンケート結果は、全体64%が「授業がわかりやすい」と答えた。 | A | ◎わかりやすい授業の生徒評価も向上している。視聴覚機器等を使った授業展開にも取り組んでほしい。 | 学習指導の記録の記載について更なる説明が必要である。わかりやすい授業により近づけるよう促す。 |
| | | 学力向上カードの活用。特に提出期限の徹底を促す。 | 学力向上カードの完了期限の遵守できている生徒50%以上とする。 | 学力向上カードの提出率61%であった。 | A | ◎家庭学習の奨励は厳しいところはあるが、成果は出ている。工夫努力を続けてほしい。 | 学力向上カードの提出以外にも基礎学力の充実に努めていきたい。 |
| | | 生徒の実態に応じた習熟度別学習を展開する。 | 生徒アンケートの満足度70%以上とする。 | アンケート結果は、63%が習熟度学習に満足していた。 | C | ◎習熟度学習の成果は向上していると感じる。年ごとに評価指標をレベルアップしてほしい。 | 習熟度にあわせた細かな教育指導体制を整えていきたい。 |
| | | 実力テストを実施する | 実力テストと進路実現 | 就職試験に即した内容の科目を取り | B | ◎就職・進学等基礎学力は | 実力テストの学習がより進 |

| | | | | | | | |
|-----------|---|--|--|--|-------------------------|---|--|
| | る。 1, 2年生：国数英, 3年生：国数英社理SPI作文を全学年とも年間3回実施する。 | との関連についてアンケートを実施する。 | 入れて実施した。 あこう意識調査結果より生徒の61%が役立つと回答した。 | | 必要である。学力向上に向けて取り組んでほしい。 | 路実現に繋がるよう、内容を精選していく。 評価指標は昨年度と同じ。 | |
| 開かれた学校づくり | ②進路実現を支援する。 | 情報技術検定・計算技術検定について合格率をあげる。 | 補習・個別指導を実施する。 | 合格率は前年並みであった。 | B | ◎各種資格は社会人になっても必要である。高校時代に取得できる資格は是非多く挑戦してほしい。 | 各種資格試の取得に向けて取り組んでいく。 |
| | | 3年担任, コース長, 進路指導課員が, 最新の進路に関する情報を収集し, 生徒に適切な情報の提供に努める。 | 生徒の希望する企業等を訪問し, 適切な資料や情報を収集する。 | 県外のべ48社, 県内数十社に出向き求人計画, 入社試験概要などの聞き取り調査を行い, 生徒に有意義な資料を提供できた。 | B | ◎1年生から, 専門分野の学習を行うことが出来るのでさらに専門性を高めてほしい。 | 県内企業の訪問先についての検討を年度当初に入念に行い, 適切な企業訪問を実施する。 |
| | | 生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。 | 進路説明会や進路講演会実施による進路選択を支援する。 三者面談・応募前職場見学・進路先資料を公開する。 採用実績を考慮に入れた進路選択による内定率の向上を図る。 生徒アンケートによる評価を行う。 | ・受験企業51社中42社が応募前企業見学が可能であり, その内およそ9割の38社の応募前見学に参加した。昨年度は9割であった。 ・一次募集の内定率が81% (59/73) であり, まずまずの成果であった。昨年度は82%, 一昨年度は88%であった。 | A | ◎卒業生の就職しての状況等多くの情報を生徒に知らせてほしい。卒業生の講演等機会を多く開催してほしい。早期の進路実現へ取り組んでほしい。 | ・本当の意味での応募前企業見学(面談で決定する前の見学)が実施できる環境作りの検討を行う。 ・今年も不採用の理由は学力不足が目立った。今まで以上に基礎学力向上に有効な手段を考えたい。 ・進路説明会への保護者の参加率を向上させる方法の検討を行う。 |
| | ③積極的な広報活動を推進する。 | ホームページの内容を充実させるとともに, 定期的に更新し最新の教育活動を広報する。 | 最低毎月5回以上ホームページを更新する。 | 2月現在ホームページ更新は230回である。一月平均23回更新され, 昨年の2倍であった。 | A | ◎ホームページの有効活用を進めてほしい。 | 各担当者がホームページ更新しやすいよう啓発, 技術的なサポートを行う。 |
| | | 企画課と連携し, 学力向上関係のトピックスの広報に努める。 | 年2回以上ホームページに掲載する。 | 夢・未来育成事業等, 学力向上について広報を行った。 | A | ◎多くの人がホームページを見ていると思う。広報の良い手段である。 | 年度当初の計画を把握し企画課と連携を密にして広報に努める。 |
| | | 本校の教育内容や教育活動について, 中学校に対し説明し広報に努める。 | 訪問校を前年度より増やす。 | 学校教員説明会が平成24年度18校に対して, 平成25年度26校と大幅に上回った。 | A | | 次年度も中学校に対し本校の教育について理解してもらえるように広報活動の充実に努める。 |

| | | | | | | |
|-------------------|--|---|--|---|---|---|
| ②学校開放を推進する。 | 中学生とその保護者を対象とする体験入学の内容を充実させる。 | 参加者を前年度より増やす。 | 体験入学の参加者が平成24年度は92名、平成25年度は101名となり、10%程度上回った。 | A | ◎来校者を増やす手立てを考えていただきたい。 | さらに多くの方々に本校を知ってもらえるよう努めていきたい。 |
| | ”徳島教育の日”に合わせ、中学生とその保護者、近隣住民に対し、公開授業、施設開放などを行う。 | 参加者を前年度より増やす。 | 参加者約140名となり昨年度を上回った。 | A | ◎多くの機会を捉えて学校開放し阿南工業高校を中学生・保護者・地域住民等にもっと知ってもらう必要がある。 | 地域住民、保護者へ学校の施設公開を通して理解を深めてもらえるよう充実させたい。 |
| | 文書案内だけでなく、情報ネットワーク課と連携し、学校ホームページ上でPTA活動の案内を積極的に行う。 | PTA活動のすべてをタイムリーに広報する。 | 文書案内も3週間前には連絡を完了することができ、各会、研修会などPTA活動の情報等も発信ができたと考える。 | A | | 情報発信を各会、研修会等だけでなく、もっと増やせるようにしたい。 |
| | PTA活動を活性化させることにより、保護者が気軽に来校できるような学校づくりを推進する。 | PTA総会、各種研修会などへの参加人数を昨年度以上に増やす。 | 各役員会・研修会・阿工祭など多くの役員の方の参加を得ることができた。 | B | | 保護者が気軽に来校できる、来校したくなるような魅力あふれるPTA活動を実施するようにしたい。 |
| ⑤校内教職員研修の充実を図る。 | 各課と連携し校内研修の充実を図る。 | 昨年度以上の研修を実施する | 校内研修としては、生徒指導、人権、特別支援及びコンプライアンス研修などを実施した。 | A | ◎生徒の興味関心を引くような授業を展開するための教材研究・授業の手法を考えてほしい。 | 今年度以上の校内研修の活性化を図る。 |
| | 参観授業を実施し、教員の授業力の向上を図る。 | 公開授業を全クラスで実施する。教材研究会を組織し、教材の研究を年3回以上実施する。 | 毎月、参観週間を設定し、全クラス参観授業を行った。また、初任者研修や3年次研修に係る研究授業には多くの職員が授業参観した。 | A | | 来年度も実施するし、授業参観者数を増加させる。 |
| ⑥情報セキュリティ対策を推進する。 | 情報セキュリティポリシーを遵守する。 | 職員会議・職朝を積極的に活用し注意喚起し、セキュリティに対する意識の向上を図る。 | 情報セキュリティに関する全体研修を1回実施した。外部講師を招いての研修を1回実施した。職朝を含め機会を捉えてセキュリティ確保のため啓発を行った。 | A | ◎情報セキュリティは、工業高校の特性を活かして今後も対策を推進して欲しい。 | 情報セキュリティ監査で指摘された「發送確認記録簿作成」、「紙媒体についても情報資産持ち出し管理シートに記入が必要」の2点を職員に周知徹底する。 |
| ⑦事業の | 産学官連携による人材 | 事業の実施により、創 | 産学官連携実学モデル事業及び知的 | A | | 地域と連携した取り組みの |

| | | | | | | | |
|---|------------------|---|--|---|-------------------------------|---|---|
| | 実施による活性化を図る。 | 育成事業を実施する。知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業を実施する。 | 造力と実践力が身についたか、アンケート結果により 60 %程度の満足度を得る。 | 財産に係る事業を展開し、参加した生徒評価で、ほぼ全員が満足のいく取り組みをした。 | | | 充実を図る。 |
| | ⑧部活動の活性化 | 全員加入を目標とする活気ある部活動を実施する。 | 昨年度実績以上の入部率が向上するよう指導する。 | 昨年度をやや下回る 91 %の入部率であったが、実質の活動は例年通りであった。 | B | ◎部活動の活性化は、学校全体の活性化につながる。より多くの生徒が部活動で活躍できるようお願いしたい。 | 入部はしているものの活動ができていない生徒も多く、活気ある活動ができるよう指導していく。 |
| 自主活動の充実と活性化を図る。あこう研究会の活動を充実させる。 | | 週 2 回の校内活動を 70 %程度を目標とする。 | 年間を通して継続的に活動することができた。 | A | 来年度は活動内容をさらに充実させ、部員の勧誘をはかりたい。 | | |
| 南部ブロック生徒部会、中・高生による人権交流集会等に 75 %程度参加させる。 | | 南部ブロック生徒部会、中・高生による人権交流集会等のすべての活動に参加することができた。 | | | 来年度も同様に参加できるようにしたい。 | | |
| 人間力の向上 | ①基本的な生活習慣の確立を図る。 | 規則正しい生活に心掛けるよう指導し遅刻をなくす。 (遅刻時の声かけ、月遅刻 6 回以上生徒の特別指導 (生徒課長・学年主任・コース長)) | 1 日の学校全体の平均遅刻数を 7 回以内にす。 | クラスの 1 ヶ月遅刻 5 回以内表彰を行い、目標を持たせた。遅刻生徒には、生活指導などを個別に行った。 2 月末の時点で一日平均 11.3 回である。2 学期、そして冬場に増加した。 | C | ◎阿工生は、礼儀正しく挨拶も良くできている。健康管理等の自己管理もできている。将来への進路にもつながる。何事にも前向きにチャレンジしてほしい。 | 家庭との連携を深める。 2 学期に気を引き締めるための強化月間をもうけるなどの工夫をしたい。 |
| | | 積極的に明るく元気な挨拶が出来るようにする。 (パワフル週間、学校安全の日) | すべての生徒が挨拶できる。 | パワフル週間や学校安全の日及び登校時の服装指導を新たに設け指導にあたった。概ね元気に挨拶ができた。 | B | ◎人間力の向上が必要である。規律正しい生活、挨拶の徹底に取り組みさらなる向上を図ってほしい。 | 今後も継続していきたい。自分から積極的に挨拶できる指導を行う。 |
| | | 頭髪・服装を正しくし爽やかに生活する。 (全校集会における頭髪服装指導と継続的な指導) | 頭髪服装検査を月 1 回を実施し、1 週間以内に改善を要する生徒を 30 人以内にする。 | 毎月の全校朝会において、係り教員を中心に指導を行った。改善を要する生徒の 1 ヶ月平均人数が 59 名であった。 頭髪については、年度当初以降は月 3 名程度と改善されたがカラーと校章を付けられていない生徒が多くあった。 | C | | 校章・カラーを付ける指導を全教員で徹底したい。頭髪についても、根気強く指導を続けたい。 |

| | | | | | | |
|--------------|--|--|---|---|---|---|
| | 遅刻防止に取り組み、時間を守る事の大切さを再確認し、基本的生活習慣を身につけさせる。毎月の遅刻回数が5回以内となるよう、家庭との連携を図りながら学年全体として指導する。 | 1 学年の年間遅刻回数を240回以内となるよう、各クラスで取り組む。遅刻の多い生徒に対しては、学年としても個別指導を行う。 | 家庭と連携して遅刻を減らすように絶えず努力を行った。 | B | ◎社会人になれば遅刻は許されるものではないことを理解させる。本人の意識改革が一番である。 | 昨年度より遅刻回数は大幅に減少したが、目標を達成することはできなかった。きめ細かな指導を心がける。 |
| ②人権意識の高揚を図る。 | 「人権を確かめる日」、「人権教育統一ホームルーム活動」の充実を図る。 | 人権感覚を高めるため、「あわ」人権学習ハンドブックを7回程度活用する。 | 人権を確かめる日、人権学習ホームルーム活動で参考資料として、5回以上活用した。 | B | ◎人権教育は、大切であるので、学校教育のあらゆる分野で取り組んでほしい。一人ひとりが尊重される社会実現、学校教育を推進してほしい。 | 次年度も同様に活用できるように計画的に実施したい。 |
| | 学校の教育活動全体をとおして、人権尊重の精神を訴える。 | 生徒の人権学習アンケート等の評価を65%程度にする。 | 3年生のアンケート結果より、人権学習ホームルーム活動は「有意義であった」と答えた生徒は80.2%であり、満足していると思える。 | A | | 人権意識の高揚と問題解決に対する態度をさらに高めるための指導を計画的に実施する。 |
| | 公正な採用選考のあり方について理解させる。 | 校内で行う管理職面接で、「就職差別につながる」とされる14項目に抵触する質問を受けたとき、指導したとおりに答えることが80%以上になるよう指導する。 | 人権学習ホームルーム活動や各コース・科での指導の成果もあり、おおむね達成できた。 | B | | 来年度も同様に徹底した指導を行いたい。 |
| | 校内人権教育教職員研修の充実をはかる。 | ホームルーム活動打合せ・教職員研修会を年8回以上開催し、85%以上参加する。 | 人権学習ホームルーム活動打ち合わせ会と校内教職員研修会をあわせて、7回以上実施した。参加率は91.7%であった。 | B | | 教職員の研修会参加率を向上させるために、研修方法の工夫・改善が必要である。 |
| | 学校行事として講演会等の内容を充実させる。 | 人権問題に関する生徒講演会（映画会）を実施する。 | 「見上げた 青い空」の人権啓発ビデオを鑑賞し、「いじめ」問題について考えた。 | A | | 来年度は講演会を実施したい。 |
| ③環境教育を推進する | 校内美化を徹底する。 | 毎日の清掃の徹底 ・清掃出席簿を作成する。 ・月に1回の大掃除をする。 | 職員の清掃出席簿を確認し、出席状況を把握、ほとんどの生徒が清掃に参加できた。 | B | ◎環境整備は大切である。 ◎省エネルギー・エコ活動への取り組みをさらに推進してほしい。 | 次年度は、100パーセントの生徒出席を目指す。 |

| | | | | | |
|----------------------------|--|----------------------------------|---|--|----------------------------|
| | 教室のワックスがけを年間2回以上とする。 | 今年度は、各教室のワックス掛けが実施できなかった。 | C | | 学期1回の各HRワックス掛けを実施する。 |
| | 年に2回の全校除草(技師との連携)専門棟は各コースで実施する。 | 年間計画に沿って、年2回除草作業が実施できた。 | A | | 従来通り、年2回の除草作業を実施する。 |
| 循環型社会形成の推進する。資源ゴミの分別を徹底する。 | 教室等のゴミ資源を6分類するための、資源箱の設置する。学期に一度ゴミ袋内の分類程度を確認する。 | ゴミ集積場にて、袋の中身を確認し、ゴミの分別はほぼ完璧にできた。 | A | ◎工業高校としての特色ある取り組みを推進してほしい。 | ゴミ分別を、従来通り行う。 |
| 雑誌資源をリサイクルに出す。 | ゴミ資源校内集積場の整備をする。月に一度ゴミ資源の集積状況調査をする。 | 資源ゴミ集積場にて、整備活動を月1回行った。 | B | | ゴミ集積場の整備を毎月実施する。 |
| | 雑誌資源の集積場所を確保する。年に1回の雑誌の古紙業者への収集を依頼する。 | 雑誌等が所定に場所にて置かれていた。 | A | | 指定された場所に雑誌が置かれているか毎月、調査する。 |
| 省エネルギーへの取り組みを行う。 | 電気使用量を前年比で減少させる。水道使用量を前年比で減少させる。 | 電気使用量の前年との比較をし、昨年より使用電力量が増えていた。 | B | | 電気使用量、前年比0.5パーセント減を目指す。 |
| 環境問題講演会を実施する。 | 3年サイクルで環境問題の重点課題が理解されるよう講演内容を検討する。地球規模で考え、足下から実行できるせいとを育成する。 | 環境問題の講演会を実施できなかった。 | C | ◎講演等の開催により知識力の増進に努め、自身のスキルアップにつなげてほしい。地域とタイアップした取り組みを進める必要がある。 | 環境問題の講演会を実施する。 |
| 環境問題標語・ポスターを募集する。 | 全校生徒対象に実施する。 | 夏季休業日中の課題として、標語・ポスターを回収できた。 | B | | 夏季休業日中の宿題として、課題を出す。 |

| | | | | | | |
|-------------------------|---|--|--|---|--|--|
| | 課題研究のものづくり に 5R 運動を取り入れ、 環境に対する生徒の意識を高める。 | 各科から出される廃棄物について分別を行い、一定期間保存する。その中から利用できるものは、施設の補修、課題研究などの実習等で利用する。生徒の評価を6割程度にする。 | 廃材の分別は概ねできたが、修理により使用可能な機械や工具類はたくさんあり、現状のままであった。 | B | | 工業高校として5S運動に力を入れ環境に配慮したものづくりに取り組む。 |
| ④安全教育を推進する。 | 防災教育 火災時の初期消火と避難、人員を確認する。 地震時の避難と人員を確認する。 | ○いつでも、どこでも安全に避難し、人員を確認できる体制を整備する。 | 避難訓練の際、人員点呼を完全実施できた。 | A | ◎災害時の危機管理は大変重要であるあらゆる場面想定して地域と連携した防災活動に取り組んでほしい。 | 避難訓練の折りに、人員点呼の徹底をする。 |
| | | ○避難訓練をより実践に即した方法に改善する。 | 避難訓練を実際に即して実施できたかを検証できた。今年度は地域と連携した地域合同防災訓練が実施できた。 | A | | 防災マニュアルに従い避難訓練を行う。 |
| | | ○電話等連絡網が寸断されたときのための携帯メール網を確立する。 | 緊急連絡網メールシステムを構築できた。 | B | | 転入した職員のデータをシステムに組み込む。 |
| | 交通事故0をめざす。 | 原付等の交通事故をなくすため、実技指導、講演会、自転車点検を行う。 | 登校時の各危険箇所での交通指導や、原付の実技指導、免許所有者集会を定期的に行った。月に一度自転車点検を実施したが原付事故が2件、自転車事故が2件あった。 | C | ◎自転車事故は加害者になることもある。ルールをきちんと教える必要がある。 | これまでの指導の徹底をはかり、自転車通学時の安全の意識を高める指導を行う。自転車の整備の徹底と二人乗りや、携帯使用をさせないように指導する。 |
| ⑤教育相談の充実 健康管理の指導 | 円滑な教育相談活動を実施するために教育相談の広報活動を行う。 | 教育相談室を毎日開室する。“教育相談だより”を発行する。 | ほぼ毎日、教育相談室を開室した。教育相談だよりを2回発行した。 | B | ◎心のケアをしっかりと行って欲しい。 | 教育相談室を毎日開室する。 |
| | 自らの健康管理ができるように、継続的な保健指導を行う。 | 保健だより等で保健に関する啓発を行う。繰り返し保健室を利用する生徒の数の減少を図る。 | 保健だよりを15回発行した。掲示資料で、保健に関する啓発を行った。 | B | | 保健だよりやその他の掲示資料等で保健に関する啓発を迅速に行っていく。 |

| | | | | | | |
|---------------------|--------------------------------------|---|--|---|--|---|
| 食育の推進 | 食に関する知識と食を選択する力を習得させる。 | 食育に関する講演会を実施する。 | 食育講演会を1回実施した。スポーツマンの栄養講座を実施した。 | A | ◎調理実習は良い試みである。次年度も続けてほしい。 | 掲示資料を通して、食育に関する情報を発信する。 |
| ⑥図書館の利用者数と貸出冊数を増やす。 | 図書館便りを定期的に発行したり、新入生にはオリエンテーションを実施する。 | 来館者を増やす。 | 生徒の要望に迅速に応えた。 | A | ◎読書離れが叫ばれている中、知識技術を身につけるためにも読書は必要である。より多くの生徒が読書をする機会を設ける必要がある。 | 昨年通り生徒の要望に応えた蔵書を増やす。簡単なものづくりができるスペースを確保し、幅広く利用してもらえるような環境作りを行う。評価指標は昨年度と同じ。 |
| | | 生徒1人あたりの貸し出し冊数を増やす。 | 来館者、貸出冊数共に昨年度の約2倍となった。 | | | |
| ⑦特別支援教育を推進する | 特別支援教育についての研修を充実させ、効果的な支援をめざす。 | 特別支援教育についての校内職員研修会を実施する。支援の必要な生徒がいる場合にはケース会議を行い、職員全体の共通理解を図る。 | 特別支援教育についての校内教職員研修会を2回実施した。特別支援教育推進委員会を2回行うとともに、個別対応を図った。職員が生徒の実態把握ができるようにアンケート調査を行った。 | A | ◎一人ひとりのニーズに応えることのできる教育を推進してほしい。 | 調査結果を踏まえて、校内の特別支援体制を整える。 |
| ⑧特別活動の活性化を図る。 | 競技力の向上をめざす。 | 前年度を上回る成績や、活動実績を上げる。 | 全国大会に出場できている部はもちろん、県大会で上位を目指す部活動も増えてきている。 | A | ◎部活動への取り組みをさらに活性化してほしい。◎活躍している音楽部（三味線）への新入部員の勧誘に力を入れ存続を願う。文化部は指導者が必要であるので確保できるようにしていただきたい。 | その競技を指導できる顧問の適正な配置が成果に大きく関与している。実績だけでなく生活面の指導も取り組んでいきたい。 |
| | 生徒が自主的に活動できる生徒会を育成する。 | 中央委員会の活動を活発になるよう年3回は計画する。 | 生徒会からの要望を校長に直接話す機会など、今までにない活動ができた。 | A | | 自主性を高めるために生徒会による立案ができるように指導していきたい。 |
| | 阿工祭（体育祭、文化祭）を充実させる。 | 文化祭の内容も少しマンネリ化しているように思われる。内容を見直し多くの方に学校を知ってもらえる機会になるように考えていきたい。 | 文化祭の来校者数は昨年並であった。これは前日の地域合同防災訓練による告知が地域に浸透していたと思われる。また、体育祭での交流も例年通り行えた。 | B | ◎生徒が自主的に活動する機会を多く増やしてほしい。 | 文化祭の内容も少しマンネリ化しているように思われる。内容を見直し多くの方に学校を知ってもらえる機会になるように考えていきたい。 |
| ⑨ボランティア活動を推進する。 | ボランティア活動を通して地域や世代を超えた交流を行う。 | 生徒会だけでなく部活動を巻き込んだボランティア活動を3回実施する。 | 老人ホームへの車椅子の寄贈、修理及び三味線による演奏を実施した。インターアクトクラブとの協力でペットボトルキャップを回収しエコキ | B | ◎社会貢献することにより地域になくってはならない阿工生として根付いてほしい。 | 防災クラブとの兼ね合いもあり地域に貢献できる活動をしていきたい。 |

| | | | | | | | |
|---------------------|--|--|---|---|--|---|----------------------------|
| | | | | ヤップ運動に協力できた。 | | | |
| 実践力の育成 | ①ものづくりの技術・技能の向上を図る。 | 教員の旋盤技術及び溶接技術向上のための校内研修会を実施する。 | 旋盤研修及び溶接研修の両方を実施する。 | 旋盤及び溶接で高度熟練技能者から指導を受けた。 | A | ◎いろいろと取り組んでいることをもっとPRすべきである。 | 次年度も実施する。 |
| | | 技能研修会や実技講習会へ参加する。 | 各コースから研修会に2名以上参加する。 | 夏期講習に2名参加した。 | B | ◎ものづくり技術が生かせる取り組みは、生徒の自信につながるものである。 | |
| | ②ものづくり技術を生かす。 | 旋盤作業、電気工事作業、測量競技など高校生ものづくりコンテストに出場する。 | 徳島県大会で2位以内の成績に入る。 | 県大会旋盤は2位、電気工事は5位、測量競技は2位の成績であった。旋盤及び測量部門は四国大会出場を果たした。溶接競技は県大会2位で、四国大会に出場した。 | B | ◎2位の成績であった。 | 県大会の各部門で優勝を目指す。 |
| | | ものづくり技術や工業技術を生かしたロボット競技会など各種競技会に出場する。 | ロボット競技大会へ出場出来るロボットを1台以上製作する。 | ロボット競技は、全国大会出場はなかった。 | B | ◎1台出場した。 | 上位入賞できるロボットを製作する。 |
| | ③産学官連携を推進する。 | 地域の企業・市役所やものづくり技術を活用した取り組みを行う。 | 地域の企業・市役所2社以上と連携する。 | 日亜化学工業株式会社、有限会社鳳凰機械、阿南市役所、阿南商工会議所と連携した取り組みを行った。 | A | ◎産学官が一体となった取組により生徒たちの意欲の向上につながると思う。 | 連携による効果は非常に大きいので、次年度も実施する。 |
| ④安全作業教育を推進する。 | 各コースの実習等において、事故やけがが起こらない指導に努める。 | 実習前の健康や作業服等の確認、注意指導を徹底する。 | 毎時間ほぼ全員が正しくできていた。旋盤作業時における、安全ゴーグルの着用が100%であった。 | A | ◎安全教育の徹底を図ってほしい。 | 安全教育は次年度も徹底して行う。安全対策の重要性を理解させるとともに命の大切さを指導する。次年度も何の異常もなく使用するために、日常点検を欠かさない。 | |
| | 実習場の機械や装置を整備し常に安全に作業できるように努める。 | 実習機械の点検や整備を行い、不備な箇所については安全対策を講じる。 | 1年間異常なく安全に実習できた。服装の確認や作業手順・ルールを徹底しており、事故やけがはなかった。 | | ◎安全で安心してものづくりに取り組むことができる環境づくりを行う必要がある。 | | |
| ⑤阿工版デュアルシステムの充実を図る。 | 2学年全員参加の短期インターンシップを実施し、生徒の進路希望や学習内容に応じた企業先で体験できるようにする。 | 成果発表会を実施するとともに、受け入れ先企業や参加生徒のアンケートにより評価を行う。 | 事後指導のアンケート結果で4.2を得た。参加者全員が発表した。 | A | ◎授業で習ったことが生かせる事業所でインターンシップを実施するなどして、成果が上がっていると感じる。 | 生徒の進路に結びつくようなインターンシップを行う。次年度も成果発表会を行う。 | |

| | | | | | | |
|---------------------|---|--|---|---|---|--------------------------------------|
| | | | | | | |
| | 3年希望者が参加する長期インターンシップを実施し、職業意識を育てる。 | 受け入れ先企業や参加生徒のアンケートにより評価を行う。 | 参加者全員年真に取り組んだ。 | | | |
| ⑥望ましい職業観・勤労観の育成を図る。 | 企業見学や現場見学を通して職場の状況や働くことの大切さを理解させる。 | 生徒アンケートによる評価を行う。 | 機械科、電気科、建設科の1年生が現場見学会を実施することができた。 | A | ◎実体験することはすばらしいことであり、勤労観等の育成につながる。 | 次年度も全学科場見学会を実施したい。 |
| | 卒業生や企業経験豊かな社会人講師の活用により、働くことへの意欲の向上や職業に対する意識の高揚を図る。 | 生徒アンケートによる評価を行う。 | 学年末に卒業生を迎えて、進路セミナーを実施した。 | | ◎より多くの卒業生に学校にきてもらって仕事の状況等話をする機会を多く持つてほしい。 | 直接先輩の話を聴くことは有意義であった。次年度も実施する。 |
| ⑦起業家精神を育成する。 | 模擬株式会社「鉄男」の活動を通してものづくり力を養う。 | ビジネスプラン通りに実施できたか達成率を評価する。また、売上金で車椅子寄贈のボランティアも行う。 | 概ね達成した。 | A | ◎キャリア教育には欠かせない取り組みである。 | 売上金で車椅子ボランティアを行う。 |
| ⑧資格取得を推進する。 | 工業の基礎技能である計算技術検定、情報技術検定3級について、一斉指導、個別指導、補習を実施し合格をめざす。 | 合格率をあげる。 | 合格者は例年並みであるが、受験者数は増えている。 | B | ◎多くの生徒が資格に挑戦するようにして欲しい。合格率のさらなるアップを期待する。 | 資格に対する意欲高め、地道に指導を続けていく。 |
| | 工業に関する専門の資格や検定の取得を推進するとともに、補習を計画的に実施し合格をめざす。 | 昨年度以上の合格者数、合格率を目指す。 | 第二・一種電気工事士試、験電験3種及び工事担任者の補習の参加率は80%であった。 2級土木施工管理技術検定試験の受験者数は減少したが、建設系の技能講習の受験率は格段に上がった。 | B | ◎第2種電気工事士の合格率は素晴らしい。他の生徒に対してやればできるという自信につながる。 | 第二種電気工事士、第一種電気工事士、工事担任者等の補習をより充実させる。 |
| | 資格・検定の取得に向けた教材づくりを行う。 | C A I教材など自学自習ができる教材を教科・コースで作成する。 | 研究授業や製図などではICT機器をよく利用した。 | B | ◎資格は取得していて損はない。前向きにチャレンジさせてほしい。 | I C T 機器利用の促進をさらに図り、わかりやすい授業を展開する。 |

| | | | | | | | |
|--------|------------------|--|---|--|---|--|------------------------------|
| | ⑨知的財産に係る意識の向上 | 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業を行う。 | アイデアと工夫に満ちたものづくりをさせる。実施後のアンケートで8割以上の達成度を得る。 | 防災関連品及び新作フラワースタンドで創意工夫が見られた。 | B | | 常に創意工夫したものづくりを心掛けさせる。 |
| 地域との交流 | ①地域貢献を推進する。 | ものづくり技術を生かし、近隣の小学校等で生徒による出前授業を実施する。 | 出前授業は5校以上の実施を目指す。 | 実施できなかった。 | C | ◎小学生と連携することにより工業のおもしろさを小学生に伝えることができ、将来産業界の担い手の育成につながる。 ◎ものづくりを通して地域貢献を学ぶことが出来る。非常に良い取組である。 ◎防災用品は必需品である今後も地域に発信・提供してほしい。 | 小中学校に出前授業できるようにする。 |
| | | ものづくりの楽しさと学校理解を図るため「ものづくり親子教室」等を開催する。 | 参加した小学生親子のアンケートによる評価を行う。 | 県の総合大学校と連携し、親子ロボット教室を実施した。 | A | | 好評であった。来年度も実施したい。 |
| | | 地域や小中高等のニーズ把握を踏まえたものづくりを通して、地域貢献及び学校間連携に取り組む。 | 該当者への満足度などのアンケート調査による評価を行う。 | 防球ネットの製作など、地域の学校と連携したものづくりを行い、好評を得た。ブックエンド、フラワースタンドなどを製作し地元小学校に寄贈した。 | A | | ものづくり力向上のためにも、次年度も実施する。 |
| | | 防災関連製品を製作し地域へ応える。 | 要望に応えられたかアンケートより60%以上の満足を得る。 | 防災かまどベンチ・薪ストーブ・軽量リアカーなどを製作し、防災訓練で地域の方々が高く評価された。 | A | | 地域からの関心も高いので、次年度も実施する。 |
| 阿南寮の運営 | ①基本的な生活習慣の確立を図る。 | 寮の生活時間を守らせ、点呼遅刻者の防しを図る。毎月の学校行事予定表を掲示し、寮生自身が目標を持って節度ある集団生活ができるように努める。 | 保護者との連携を密にし、帰寮時刻の遅い寮生の保護者に状況説明を行う。全寮生集会を年間10回実施し、各自が集団生活をするためのモラルやマナーについて振り返る機会を持つ。 | 保護者との連携を密にし、不登校傾向にある生徒に対し協力的な指導ができた。全寮生集会での継続的な生活指導等により、落ち着いた生活を過ごす者が増加した。登校前の巡視や一人ひとりに対する声かけにより、遅刻者が減少した。 | A | ◎遅刻が少なくなる取り組みが定着しつつあると感じる。さらに指導をお願いしたい。 | 次年度は、寮全体のモラルやマナーの向上を図る必要がある。 |
| | | ②自主学習の習慣を定着させる。 | 自習室・休養室を活用し、自主学習の習慣の定着を図る。寮生在籍校との連携を図り、学習状況等を把握し学習意欲の喚起に努める。 | 全職員による日常的な声かけを行う。学習意欲が低い寮生には、定期考査前に面談を実施し状況を把握し学習への意欲喚起を図る。各 | 所属校との連携を図り、成績不振者への個人面談の実施、自習室の冷房、舎室の暖房使用時間の延長による学習環境の改善により、学習習慣が定着してきた。 | | B |

| | | | | | | |
|---------------|--|---|--|---|-------|--|
| | | 校には年間3回、出席・成績状況等把握のための情報提供を依頼する。 | | | いしたい。 | |
| ③美しい寮の環境をつくる。 | 阿南市のゴミの分類に沿った分別を行うとともに、寮生全員による定期的な清掃を実施する。計画的な寮の環境整備を行う。 | 寮内清掃を毎週(月)(木)に実施し、ゴミの分別指導を行う。全寮生集会後に大掃除実施する。学期に1回寮の環境点検を実施する。 | 寮内環境点検(週1回)、一斉清掃(週2回)及び大掃除(月1回)を実施した結果、浴室・トイレは使用状況も含め昨年度より美しくなった。全職員による学期に1回の大掃除・環境整備の実施により、安全で美しい環境を保つことができた。 | A | | 防災意識を高め、身の回りの整理・整頓を行い、災害時には迅速かつ安全に避難できる環境を常に整備する必要がある。 |